

## 広島高速道路

### 新たな交通政策で位置づけるまえに

# “本当に必要なのか” まず検証すべき

予算特別委員会・建設関係 3月15日

### 中森辰一議員の質問

広島高速道路は、利用見通しが3割下方修正されたことで事業収入が1千億円も減り、その結果、整備事業費が820億円不足する事態となっており、現在、市は、「高速道路整備プログラム」を見直しています。

公共事業見直し委員会は、同事業を「一旦中止」と結論付け、交通戦略の抜本的転換を求める答申を出しましたが、新年度予算では同事業に61億4500万円が計上されています。

市は、現在策定中の「新たな交通ビジョン」のなかで、「高速道路ネットワークの形成は、物流の効率化に資する経済インフラ」として、重要な位置づけをすると説明しました。

中森議員は、「高速道路の位置づけの仕方が逆ではないか」と指摘。「今の説明では、高速道路建設がまずあつて、新しい交通政策の中に位置づけるように聞こえる。本当に必要なのかきち



質問する中森辰一議員 15日、予算特別委員会

んと検証したうえで、新しい交通政策の中に位置づけるべきではないか」と市の姿勢をただしました。

市は、「高速道路は広島都市圏の基盤」と述べ交通戦略の抜本的転換を求めた公共事業見直し委員会の答申については、「整備プログラムの見直しのなかで、都市圏の経済インフラとなる高速道路網を政策面から明確にする考えであることから『実施の方向』を打ち出した」と答えました。

中森議員は、「ある程度お金をつぎ込んだから事業を進めていくという前提のようだが、これまでの事業費より、これからつき込む額の方がはるかに大きい。それだけの事業費をかけても本当に必要なのかという検証がなければ、市民は納得しない」と強く訴えました。

### 従来どおりの出資を県・市にもとめた 高速道路公社の姿勢おかしい

中森議員は、新年度予算案に計上された広島高速道路公社への出資額が県・市で違うことにふれ、「市が事業計画の見直し中であることを承知で、高速道路公社がこれまでどおりの事業費を県と市に要求したのはおかしい」と指摘。事業費の不足が生じていることは、公社自身の問題であり、真剣に受け止めるべきだと理事長の責任を問いました。

市は、「(不足額については)公社は知り得たと思うが、当初は見直しが昨年末だったので対応のズレがあった」と述べるにとどまりました。

### 地盤沈下で工事費2倍

責任の所在あいまいにしないように

広島高速1号線・馬木トンネル工事

中森議員は、事前調査での予測を10倍も超える地盤沈下によって工事費が2倍にふくれ上がった高速1号線馬木トンネル工事について、「90億円も余分に工事費が必要となった責任を決してあいまいにしないように」とあらためて市に求めました。

市は、「現在、広島高速道路公社において詳しい調査をおこなっており、その結果をうけて責任の所在、責任の果たし方について公社と協議していく。決して(責任の所在を)あいまいにするつもりはない」と答えました。



### 820億円の財源不足に対し 市「新たな税金投入の考えはない」

中森議員は、「820億円の財源不足に市民の税金を投入できる状況ではない。一部路線の中止など、県と協調して抜本的な見直しを」と要望しました。

また、財源不足の埋め合わせに新たな税金をつぎ込むことはないかとの質問に対し、市は、「次期財政健全化計画の制約を踏まえると、さらなる(税金投入の)増額は考えにない」と答えました。



## 段原東部区画整理事業

# 計画決定から33年も経過 人道的配慮からも 地権者の意見を最優先に

予算特別委員会・建設関係 中原ひろみ議員の質問 3月12日

市は、段原東部区画整理事業について今年6月までに見直し案を出し、それまでは予算執行を凍結するとしています。(新年度予算案には建物移転費等27億円の予算を計上)

しかし、事業費を縮減する見直しができなければ、各年度の事業予算を小さくして事業期間がさらに延びることになってしまいます。実際、当初の事業完了予定は2005年度でしたが、現在は2013年度へと延びています。

都市計画決定からすでに33年も経過し、地権者は改築も増築もできずに事業開始を待ち続けてきました。老朽家屋での生活を余儀なくされ、下水道も整備されていません。段原日の出町や山崎町では高齢化率が3割以上にも

なり、高齢者の4人に1人が1人暮らしです。

「もう疲れた」「自由にしてほしい」「死ぬまでに家を見て替えてきれいな家に住みたい」「これ以上事業が伸びるのはごめん。さっぱり中止してほしい」など様々な意見があります。

中原議員は、「事業期間を延長することについては、まず地権者の意見を聴くことが最優先にすべき」と訴え、喜多川段原再開発部長は、「住民の希望はよく理解している。6月までには見直して対応したい」と答弁しました。

中原議員は、「人道的に中止できない事業だからこそ『選択と集中』をおこない、優先的に予算をつける人道的配慮が必要ではないか」と訴えました。

## 広島南道路 江波地域

# 「文化と伝統のまち壊すな」が多くの地権者の意志 いますぐ住民に現状報告を

予算特別委員会・建設関係 皆川九し議員の質問 3月15日

広島南道路建設の事業認可の申請には、地権者の合意のうえで測量することが必要となります。

広島南道路が計画されている江波地域では、高齢であることや生活設計がたたないことを理由に土地の早期買収を希望する地権者がいたため、希望のあった約120件のうち62件について国が道路開発資金などを活用し、先行して用地買収をしています。

皆川議員は、「住民のなかには測量を拒否している人もいます。測量もできないのに、虫食いで土地を先行取得して既成事実を重ねるのは住民への約束違反であり、無責任ではないか」と追及。

また、計画決定された1997年に江波地域の住民がまちぐるみで市役所に抗議した経緯にもふれ、「住民の多くが反対しているのは、アリを踏みつぶすような乱暴な計画で、まちがこわされようとしているからだ」と強調しました。



皆川議員は、江波地域には丸子山不動院、海神宮、聖山神社、江波神社など、古くからの広島歴史・文化・伝統が生きており、それを地域の人々が大切にしてきたことを紹介し、「公共事業見直し委員会の報告をうけ、住民のなかには不安が広がっている。市の見直し案が出るまで待つというのではなく、段原再開発事業のように、いますぐ住民に現状報告をするべきだ」と要望しました。

